

「令和2年度主要農作物品種審査会（稲、大豆）」会議録

1 日 時：令和3年2月4日（木）午後3時から午後4時20分まで

2 場 所：宮城県行政庁舎4階 特別会議室

3 出席者

(1) 委員：7名

本間 香貴, 阿部 茂, 高橋 久則, 中村 聡, 加藤 房子, 山田 せつ子, 伊藤 紳

(2) 幹事：4名

高澤 和寿, 松原 馨一, 千葉 啓嗣, 堀内 保昭

4 会議録

(午後3時開始)

○事務局（寺島班長）

定刻でございますので、ただ今より、主要農作物品種審査会を開催します。
はじめに、開会の御挨拶を本間会長よりお願いいたします。

○本間会長

本日は、御多忙中にもかかわらず、主要農作物品種審査会に御出席いただき、厚くお礼申し上げます。
今回の主要農作物品種審査会では、次年度の優良品種決定調査に供する稲・大豆の系統について御協議いただきます。

さて、水稻・大豆における新品種の動向についてですが、水稻につきましては皆さん御承知のとおり、近年、全国的に新品種が続々デビューを果たし、高価格帯のブランド米の産地間競争が激化しております。

しかしながら、人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響による需要・消費減退も加わり、主食用米については在庫の過剰に直面しており、令和3年産の主食用米については、全国で6.7万ヘクタール、生産量に換算すると36万トンの作付転換が必要との農林水産大臣の談話がありました。

また、大豆につきましては、実需者が求めている品種と、生産性の高い品種がミスマッチ状態となっており、生産者と実需者の両方に好まれる新品種の採用が期待されているところであり、加えて、国産大豆の生産拡大に向けた支援が国で事業化されており、支援を活用して積極的に生産拡大を推進していく必要があります。

今年度は、前年のように台風の上陸により農作物に大きな影響を受けるような状況はありませんでしたが、気象変動にも耐えうる、また、消費者や実需者の多種多様なニーズに対応する稲、大豆の生産を推進し、あわせて、生産者の収益性の向上を図っていくことが重要となっております。

本日お集まりの皆様には、こうした情勢を踏まえ、各審議案について十分に御検討いただき、忌憚のない御意見や御提案をいただけますようお願い申し上げます、開会の挨拶とさせていただきます。

それでは、本日はよろしく申し上げます。

○事務局（寺島班長）

ありがとうございました。

本日御出席いただいております委員の皆様方を御紹介いたします。次第裏面の出席者名簿をご覧ください。

～各出席委員を紹介～

なお、高澤まき子委員、鈴木康則委員、大崎早苗委員におかれましては、都合により、欠席となっております。

本日は、委員7名の出席をいただいておりますので、主要農作物種子条例第22条第2項の規定により、委員の半数以上が出席されていることから、会議が成立しますことを御報告いたします。

なお、本審査会につきましては「情報公開条例」に基づきまして、公開で開催させていただきますので、委員の皆様におかれましては御了承願います。

これより審議に移りますが、これからの進行につきましては、主要農作物種子条例第22条の規定により、本間会長を議長に進めて参りたいと思います。

本間会長よろしく申し上げます。

○本間会長

それでは、暫時、議長を務めさせていただきます。

はじめに、資料の1ページに知事からの諮問文がございますのでご覧願います。

本日、優良品種の改廃は予定されておりませんので、諮問事項は

- (1) 令和3年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について
- (2) 令和3年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）について

のみでございます。

それでは、ただ今より、審議に入ります。

- (1) 令和3年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について、事務局から説明願います。

○事務局（大川）

要望される品種、令和2年度供試品種を説明。

○堀内幹事

令和3年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について説明。

○本間会長

どうもありがとうございます。それでは皆様からの御質問をお願いいたします。

○高橋委員

5～6ページで、早生、中生、晩生に対比する形で試験をしているということですが、「奥羽446号」が出穂期が早く、もともと早生の品種の比較にはちょっとということですが、これは最初に系統番号をつけて試験場で発表する時に、育成地が早生と表示をして試験を行うのか、それとも古川農業試験場で当県として早生品種に適用するためということに対比させて試験をするのでしょうか。

○堀内幹事

育成地で早生としております。

○高橋委員

品種によっては、県で採用していくときに、育成地は早生だけれども、当県では中生の方がいいということや、逆に中生と表示されているが、早生で非常に良い成績を示すということでの判断もありうるのでしょうか。

○堀内幹事

あります。例えば、「コシヒカリ」ですと、宮城県では晩生になりますが、関東では早生になってきます。

○高橋委員

この品種はそこまで標記を変えながら検討するものではなく、あくまでも早生は早生として対比すべきものと古川農業試験場で判断しているのでしょうか。

○堀内幹事

1年目ですので、もう一度早生なのか確認したいというのが一点ございます。もう一点は、これは国の研究機関が育成した品種でございます。これまで、「萌えみのり」や「ちほみのり」など、我々が把握しないと

ここで現地に導入されることがありまして、普及センターの方から、農家から栽培方法を指導して欲しいとお願いされても、どのようなものなのかわからず指導できないということがあります。今回、「奥羽446号」につきましては、切ろうと思いましたが、普及センターから結果的にも良く特性的にもいいものを国の方で品種登録をして、そのことを知らないまま現場に入ってくると指導できなくなるので、特性把握するという意味で残して欲しいという要望がありましたので、今回残しました。

○本間会長

予備調査の「奥羽446号」を中生として見てはどうかとか、中生の「岩手143号」が8月6日出穂なので、早生として検討してもいいのではと思ったのですが、こちら辺はどうでしょうか。

○堀内幹事

連続して試験結果が出て、遅い、早いという結果が出れば、組み替えるというのは、十分あり得ると思います。

○中村委員

昨年、だいぶ天候が極端で、7月は日照不足と低温が続いて、梅雨が明けてかなり高温が続き、出穂期や品質に影響が出たのではないかと思います。昨年の気候での評価の位置づけはいかがでしょうか。

○堀内幹事

8月以降回復いたしまして、高温が続き、品質にかなり影響が出るのではという感じを受けていたのですが、逆にそれが幸いしたようでして、粒そのものが小さいのですが、実入りが良くなりまして、品質的にも良くなったということでございます。ただ、その結果を見ると、もともと高温に強くない品種もございまして、そのような品種は、白未熟粒が多かったりしています。今回、白未熟粒等多く発生した品種につきましては、高温耐性的に問題があるのではないかと考えてよろしいのではないかと思います。

○本間会長

昨年度の時は、カドミウム低吸収性イネの採用について急がなければならないという感じだったと思いますが、成績的には少し思わしくないということなのではないでしょうか。

○堀内幹事

特性的にはこのような形になるのかなと思います。どうしても出穂期に関しましては、同質系の品種と申しまして、似て非なるものということでズれてしまいます。また、収量につきましても、カドミウムを吸わない遺伝子をのせると落ちてしまう傾向があります。大なり小なり、「東北228号」にしても「東北235号」にしても、そのような傾向が出たということでございます。また、行政的な判断もございまして、それは打ち合わせしながら、採用する、しないは検討してまいりたいと思います。

○本間会長

今のところ、要望される品種では、その他の既存の優良品種に特定の病害虫や環境要因に対する望ましい特性を付与された品種として育成されていると思うのですが、どうしても同質遺伝子系統ということと、全く同じものは無理ということになると、それよりは新たな品種として育成という方向があると思うのですが。

○堀内幹事

今、2系統で試験、育成しておりまして、あくまでも、ひとめぼれの準同質系統ということと、既存の県内の主力品種にカドミウム低吸収性の遺伝子を積んだものの2系統で育成は進めております。

○本間会長

これらについて、全農みやぎの阿部委員、宮城県生活協同組合連合会の加藤委員は意見ありますでしょうか。

○阿部委員

流通上のところから申しますと、食味が変わることはだいぶ致命的といいますか、特に新潟県の「コシヒカリ」の時も、宮城県で言う「ササニシキ」が「ささろまん」というところと同じような展開がございました。流通現場の声としましては、「全然違うもの」という評価が出てしまいますと、むしろ人気は低下の方向にささやかれてしまいますので、そのようなことは回避したいなというところは正直なところでございます。特にそのような意味で「カドミウム」に関しましては、消費者の皆様も敏感ですので、表現と申しますか、出し方を間違えますと、本体にまで影響が出てしまうことになりかねませんので、そこは慎重な進め方が必要と考えております。

○本間会長

要望される品種については、事務局の方からコメントなどないでしょうか。

○事務局（大川）

今、要望される品種については、かなり事細かく書かれています。修正作業をしているところです。例えば、「ササニシキ」の食味・食感を持ち、より栽培特性の優れた中生品種書いていますが、「ササニシキ」より上回るものが本当に望まれているのかというと、「ササニシキ」がブランドとなってある一定量流通していると捉えられている部分もありますので、今の状況、今後どのような方向にいくかということを含め、修正作業をしているところです。

○本間会長

ちなみに、要望される品種は、どのような当たりから決めていかれるのでしょうか。

○事務局（大川）

米を巡る情勢も含め、どのようなものが好まれ、宮城県としてどのようなところを目指していくのか加味しながら、また、現在要望される品種の項目が多いので、整理しながら変えていきたいと思っております。

○本間会長

ほか、いかがでしょうか。

○高橋委員

要望される品種のニーズをどのように予測していくかというのが重要だと思っています。もちろん、良食味、高収量、病害虫抵抗性を含め作りやすいは当然求めていかなければならないところだと思いますが、今回、国の食料・農業・農村基本計画、それから県も2月議会で承認されるであろう、食と農の県民条例基本計画の中で、大きく農業を巡る環境が変わるというところをもうちょっと加味して、要望される品種の設定を考えてはどうかなと思っています。現役時代から見ていた要望される品種が、ここ10年~20年変えていない状態なのではないかと思っていました。決定的に違う状況になるのは、農業者がいなくなり、100haを越える経営体がどんどん出てくる中で、現実には現場の感覚からすれば、直播の面積が増えていったり、栽培体系が変わっていったり、すべて良食味でなくても、実需者と結びつけられるような品種構成を大規模経営体自身が求めていく、ということからすると、その辺に対応するような要望される品種の設定を、今この場でどうこうではありませんが、県含め関係機関含めてよく検討していただき、時代が変わるんだというところに対応される要望される品種の設定をすべきではないかという風に思っておりますので、是非御検討いただければと思います。

○本間会長

ありがとうございます。何かこれに関して御意見があればお願いします。

○堀内幹事

例えば、「ひとめぼれ」だと中生しかありませんが、同じ「ひとめぼれ」の味を持った早生から晩生までを育成し、100ha規模の農家の方がその3品種群を使うことによって、生産されたものは全て「ひとめぼれ」という品種構成もあり得るという話を作物育種部内ではしております。また、白米ではなく玄米に需

要がシフトしているということもありますので、玄米食用品種では「金のいぶき」がありますが、玄米粉への加工用品種の育成の方向等についても議論をしているところでございます。

○本間会長

本調査は結果からわかりますが、予備調査でどのようなところを注目しているか教えていただければと思います。

○堀内幹事

予備調査について説明。

○本間会長

現状では、いもち病で農家ほ場で問題になるようなことがほとんどないように思いますが、やはり冷害を考えると、かなり強い品種を用意しなければならないということでしょうか。

○堀内幹事

実は今年度、いもち病が発生しておりまして、薬剤がなかなか手に入らなかったという状況もありましたので、やはり高温耐性も必要ですが、一転して低温という問題もありますし、あわせていもち病についてもセットで考えていかなければならないと思っております。

○本間会長

特に質問はないようですので、令和3年度優良品種決定調査供する品種（稲）については、原案どおりで適当であるとしてよろしいでしょうか。

○各委員

異議なし。

○本間会長

それでは、（１）令和3年度優良品種決定調査に供する品種（稲）については、適当であることといたします。

続きまして、（２）令和3年度優良奨励品種決定調査に供する品種（大豆）について、事務局より御説明願います。

○事務局（大川）

要望される品種、令和2年度供試品種を説明。

○堀内幹事

令和3年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）について説明。

○本間会長

それでは、皆様からの御質問をお願い致します。

○伊藤委員

2点ほど聞きたいことがあります。「すすみのり」という名前が付きつつあると思いますが、他県では先行して作られている地域もあるのではないかと思います。実需に渡してみてもの評価があるのか、2点目としては、特性で青立ちが少ないとか熟す時期が前倒してくるというのがありますが、刈り取りするときに、莢が裂けやすいヘッドロスなどが起きるのではないかと心配になるのですが、刈ってみてなかったのか伺いたいと思います。

○堀内幹事

実需の評価ですが、まだ長野県から聞いておりません。長野県も奨励品種にしますが、普及はこれからの

ようです。特性的にはそのようなところも含めて大丈夫かと思えます。

○高橋委員

令和2年度は、ほ場に立枯性病害が多発で、坪刈りと全刈りでやらざるを得ないという評価になったという説明がありました。対照、比較品種を含め、古川農業試験場の全ほ場で立枯性病害が出たということでしょうか。

○堀内幹事

そのとおりでございます。特に標播のところはひどく、諸障害のところをご覧くださいと程度がわかります。「すすみのり」は標播で2.8、「タチナガハ」も2.8ということですので、同じ供試品種の中では同程度でしたので、相対的な比較はできるのかと思えます。

○阿部委員

データを見る感じ、最下着莢高のところ、生産者の作業性という観点から、「タチナガハ」に流れた経過が「ミヤギシロメ」との比較の中での話でしたので、そのような意味で「東山231号」は、「ミヤギシロメ」以上の、要は「タチナガハ」クラスの最下着莢高レベルである15センチ以上を確保されている点では支障がなく、良いと思えます。

また、豆腐の加工、味噌、納豆などの加工適性ですが、こちらについても過去に「里のほほえみ」についていろいろ議論がありました。この、加工適性がどこまで上がるのかというのが非常にポイントになっていると思います。流通上の評価について、長野県では令和2年度で認定品種になるかと思えますし、品種登録出願公表もされているようなので、評価はこれからだと思えますが、データを見る限りは支障がなく、期待できるのではないかと考えております。是非、積極的に結果に結びつけられるようにしていければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○本間会長

「タチナガハ」に変わるものとして比べていますが、目標としては「タンレイ」レベルが欲しいなどの話にはならないのでしょうか。

○堀内幹事

品種それぞれ特徴があるようでして、本県だと「ミヤギシロメ」が一番タンパク質や糖度の割合が高いものですから、豆腐にしてもおいしいものができるということです。「タンレイ」については、バランスという面で、何にしても合格点が付けられ、使い勝手が良いということです。「すすみのり」については、「タチナガハ」に代替するものでして、実際「タチナガハ」の需要動向を見ますと、需要がまるっきりないわけではないようです。ただ、先ほど申しましたとおり、タンパクが低かったりしますので、ある一定の需要はありますが、それを越えますと買ってもらえないということがありますので、是非変わるものが欲しいということでした。

○本間会長

例えば「すすみのり」のレベルは、「タンレイ」と比べると少し落ちるということでしょうか。

○堀内幹事

詳しいことは存じ上げておりません。

○阿部委員

「タンレイ」のポイントは、紫斑病が現場で一番課題になっているところです。お客様の評価は付いていますが、紫斑病への抵抗性が“やや強”と記載がありますが、「タンレイ」と比較してどうなのかというところも確認できると良いと思えます。

○堀内幹事

そのあたりも、しっかり確認していきたいと考えております。

○本間会長

他にいかがでしょうか。

○中村委員

「東山231号」が「タチナガハ」に代わるということで、子実重やタンパクについて、「タチナガハ」よりも平均して高いということで豆腐等の加工適性が優れるというのは確実かなと思います。播種時期ですが、収量で標播はタチナガハよりも子実重が得られるようですが、晩播は若干足りないのかなと思うのですが、普及していく上で「タチナガハ」に代わるということですが、同等と見て良いのでしょうか。

○堀内幹事

晩播につきましては麦後想定だということですが、今回の平成26年以降の結果を見ましても、晩播には適さないのかなと思っています。大豆単作で標播にするような形で進めていった方が、農家の方にとっても良いのではないかと思います。

○中村委員

タンパクは「ミヤギシロメ」に比べると「東山231号」の方が良いのかなと思いますが、全糖が大きく違うのかなと思います。今後、加工適性の中で、糖をより蓄積する品種の導入が、実需に合った形で進められるのかなと思います。なかなか難しいところではありますが、タンパクを上げることと糖ももう少し上がるというと思うのですが、その辺の方向性がありましたらお聞かせください。

○堀内幹事

まさしく、糖が豆腐にした際の甘味や、味噌にしてもそうだと思いますので、糖が高い品種は求めていく必要があると思います。まずもって、「タチナガハ」に代わるものということでございますので、現時点では「すずみのり」で対応いたしまして、ゆくゆくはタンパクや全糖も含めたかたちで供試していければと思っております。

○本間会長

晩播について伺いたいのですが、要望される品種の中には載っているのですが、晩播の品種が欲しいと思っているのですが、本調査と予備調査に上がっていないので、難しいということなののでしょうか。

○堀内幹事

標播と晩播で比較しておりますので、仮に新しい系統の中で適するものがあれば、またさらに何年かかけて追っていった適正かどうか確認したいと思っております。

○山田委員

大豆というと、試験場の試験で発生した立ち枯れなどのように、昨年の天候のような影響を受け、病気に弱いというイメージがあり、水田において転作で作りますと過湿に弱いのかなと思っています。病気に強いと作りやすくなるのかなと思いますが、病気に強いような作りやすい大豆について、今後考えていただけるのでしょうか。

○堀内幹事

今回の立ち枯れ性の病気は、どこのほ場でもあり得るようなことでして、排水が悪いと発生する場合があります。昨年の場合、7月に結構雨が降りましたので、特にほ場に水が滞水してしまいますと、このような病気にかかりやすくなります。まずは、ほ場をしっかりと畑地化できるようなことをしなければならず、かつ、試験において病気に強い系統を選抜できればと思っております。

○高橋委員

私どもの方では、県の方から委託をうけて、原種・原原種を生産し、さらに現地での種子を生産するという役割を担わせていただいております。昨年、現地を回らせていただいた中で、現地での課題の中にほ場の

使い方がありまして、当然、転作をやっている法人等は、連作障害が非常にしやすいので同じところに連作せずにブロックローテーションや2年3作の中で必ず水稻を入れるということをやっております。ただ、どうしても連作をしなければならないというところでは、去年は雑草の発生が多く、種子としての合格を出せないというところもありまして、連作を避けるべきだろうと思うのですが、この辺は、古川農業試験場での品種を選定する試験は、完全に連作の中でやっているものなのではないでしょうか。ちなみに、原種・原原種については、県の方からの支持もある中で連作せざるを得ない中でほ場を畑としてずっと使い続けておりまして、去年から担当することになってビックリしたのは、私がかつて普及員として指導してきた時の大豆の姿では全くありませんでした。この試験では、茎長が90センチとかそれなりの大きさに「ミヤギシロメ」もなっているようですが、原種・原原種生産ほ場では、ほとんど丈が満たされておらず、収量は当然上がりませんが、しっかり原種・原原種にはなっています。試験場での品種を選定する側の栽培地の状況はどのようになっているのでしょうか。

○堀内幹事

当然、古川農業試験場のほ場も水田でございます。ただ、水田でもある程度の年数でブロックローテーションをやっております。

○本間会長

その他、特にないようですので、令和3年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）については、原案どおりで適当であるとしてよろしいでしょうか。

○各委員

異議なし。

○本間会長

同意を得られましたので、令和3年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）については、適当であることといたします。

以上で諮問事項の審議を終了します。

次に答申案をまとめたいと思いますが、いかがいたしましょうか。特に問題なければ議長一任としてさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○各委員

異議なし。

○本間会長

今回、知事から諮問があった事項については、適当であると認める旨答申したいと思いますが、御異論ございませんでしょうか。

○各委員

異議なし。

○本間会長

審議については以上となりますが、その他事務局、あるいは皆様からございますでしょうか。

特にないようですので、以上をもちまして本日の審査会の議事は終了となります。進行を事務局にお返ししたいと思います。御審議どうもありがとうございました。

○事務局（寺島班長）

皆様どうもありがとうございました。

以上をもちまして、本日の主要農作物品種審査会を終了させていただきます。委員の皆様には、長時間に渡り御審議いただきましてありがとうございました。おつかれさまでした。

(午後4時20分終了)